

一人が主役

“まちづくり”の実現に向けて～



旧軍港市として栄えた歴史がある呉市と長崎県佐世保市。現在も深いつながりがあり、共に市制110年の節目の年にあたります。これまでの歴史を踏まえ、小村和年市長と佐世保市商店街連合会竹本慶三会長が今後のまちづくりについて語り合いました。

※呉市は、旧軍港市である長崎県佐世保市、京都府舞鶴市、神奈川県横浜須賀市と共に、旧軍港市振興協議会を結成し東京都内に協議会事務局を置いています。呉市からも職員を派遣し、4市相互間の連絡調整のほか、首都圏での行政に関する情報収集や観光・特産品のPRなどの広報活動を行っています。

呉市と佐世保市

市長

佐世保と呉はほとんどよく似ていますね。目の前が港で三方を山に囲まれた地形、人口呉市約24万人、佐世保市約26万人、そして何より軍港として栄えた歴史ですね。

竹本

確かに似ています。それぞれ、海上自衛隊の基地があり、呉と佐世保は海上自衛隊を通じて交流がありますよね。

市長

呉に赴任された隊員さんに話を聞いたとき「呉は住むには良いところ」とよく言われます。一方で、佐世保は「商店街が元氣」という理由で隊員さ

んに一番人気があるそうです。商店街には、人と人とが密に交流できる「出会いの場」としての役割がありますからね。

竹本

商店街は人と人を結ぶ「社会的役割」があったのですが、最近はこのまちの商店街もシャッターが閉まっているお店が多いですね。帰省した人たちから「寂しい感じがする」と言う声を聞いていました。そこで、まちを元気にしたいと思い始めたのが「よさこい祭り」だったんです。祭りをやることでみんなが意見を出し合い、人がつながっていったんです。



▲YOSAKOI中国九州祭り

まちづくりの主役

市長

市長就任当初、呉市はとても財政が厳しかったので、強力に財政改革をやってきました。改革の一つとして行ったのが、職員の数的大幅に減らすことです。それに合わせ、残った職員で頑張ることはもちろんなので

が、市民の皆さんにも自ら地域の課題に取り組んでもらえるよう「市民協働」を進めてきました。呉のまちには「自分のまちは自分で作る」という考えが息づいていたので、地区ごとにまちづくり計画を立て、必要な資金を市が支出する仕組みを作りました。やはりそこに住む人たちに「自分たちのまちをこんな風になりたい」という思いがないとダメだと思います。

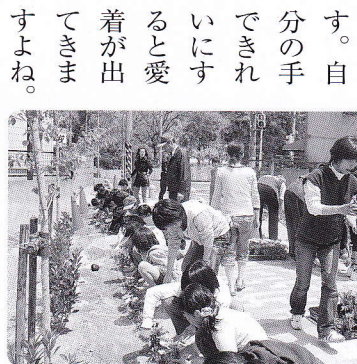
竹本

佐世保では、商店街のアーケードを地元の子どもたちが



▲まちづくり委員会の活動

掃除しています。自分の手できれいにすると愛着が出てきますよね。



▲まち普請事業

ポイ捨てをしたり、汚したりしませんし、安心、安全、清潔意識も高まりました。

市長

商店街の整備を行政が手伝うことはできるんですが、やはり自らが盛り上がりがないと、他人ごとになり、どこかやらされた感が出てしまいます。

竹本

イベントは、そこに住む人たちの発想がないと開催できないと思っています。市役所にイベントの事務局を置くケースをよく聞きますが、佐世保にはイベントの事務局機能だけを請け負うNPOがあり「市が事務局を持つ」という考え方は私にはありません。

市長

行政と市民生活の関係は、近年になっていろいろ細かいところになって入り込むようになったと思います。飲み水やご